

木部保護にキシラデコールを用いた木製サッシ

断熱・気密性の高さから有床診療所で利用



福岡市中心部に近い脳神経外科クリニック高木では、有床診療所の建て替えにあたって、すべての開口部に木製サッシを用いた。サッシ木部には保護塗料としてキシラデコールを用いる。3重ガラスと開閉機構に特徴のあるスウェーデン・ノルド社の木製サッシを採用した背景には、診療所を運営する医療法人の理事長を務める高木忠博氏のこだわりがある。診療所建て替えにあたっては、どのような考え方で臨んだのか、どのようなこだわりから木製サッシを採用したのか、高木氏にお聞きした。

医療法人脳神経外科クリニック高木 理事長 高木 忠博 氏

—建て替えには、どのような考え方で臨まれたのですか。

高木 ● 診療所の建物として、「清潔さ」「そうじのしやすさ」「機能性」の3つを気を配りました。有床診療所として19のベッドを持っているので、気密・断熱性と防音性の高い建物を目指しました。どのような造りにするか、こだわった個所はたくさんあります。とりわけ窓には、強い思い入れを抱いていました。1~3階の診療所と4階の自宅はともに、原則としてすべての窓に、木製サッシを採用しています。このサッシは、

3重ガラスと、ガラス面をぐるりと1回転させることができる開閉機構に特徴があります。

ドイツで記憶に残る木製サッシ 気密・断熱性と防音性で評価

—木製サッシにこだわったのは、なぜですか。
高木 ● ドイツ北西部のハンブルク郊外に、2、3週間ほど滞在したことがあります。金属製のサッシもないことにはないですが、向こうでは木製サッシの窓がほとんどと言っていいでしょう。

滞在した民家は、とにかく快適で、外の音がまず入ってこないで静かでした。「なぜか」と考えた結果、「窓のおかげだろう」と思い至りました。それらの窓は大きいうえに、ガラス面のそうじが行き届いていました。

滞在経験から、木製サッシとは気密・断熱性や防音性の観点で良いものだと機能性の高さが印象に残りました。ガラス面がきれいなのは、ガラス面をぐるりと回転させれば、普段は外に面している側を室内からでも簡単に拭くことができるからです。



脳神経外科クリニック高木。1~3階が診療所、4階は診療所を運営する医療法人の理事長、高木忠博氏の自宅。上は木製サッシ。木部には保護塗料としてキシラデコールを用いる。同建物は福岡市福祉のまちづくり条例に定める整備基準を全て満たし、「整備基準適合証(優良)」の交付を受けている

所在地／福岡市早良区弥生1丁目 建築主／高木忠博 設計・監理／株式会社栗山建築設計研究所 施工／安藤建設株式会社九州支店 施工期間／2006年11月~07年10月 主要用途／診療所・住宅 主要構造／鉄筋コンクリート造・地上4階建て 敷地面積／1067.94㎡ 建築面積／407.28㎡ 延床面積／1271.33㎡

—どこの木製サッシを用いるか、いろいろ検討されたのですか。

高木 ● 海外メーカーのものはないかと、インターネットを利用して探しました。その結果、スウェーデンのメーカーとドイツのメーカーの2社に行き着きました。

ドイツのメーカーの製品にすると、海外に発注して現地生産したものを輸入するせいか、価格が高い。ところが、スウェーデンのメーカーの製品は、北海道・旭川に工場を持っているので、そうした問題はない。結局、スウェーデンのメーカーであるノルド社の製品を採用することに決めました。

サッシの耐久性保持に向けて 木部の保護塗料は塗り替え予定

普通の住宅で使ってみてどうだったかという使用感を聞きかかったので、ノルド社の営業の方と一緒に、広島県内の施工例を見にも行きました。建築主に話を聞いて、快適さや静かさを確かめることができました。

—完成から2年半。患者さんや職員

の反応はいかがですか。
高木 ● 「気持ちいい」と好評です。室内の壁が白いのでアルミサッシだと冷たい感じになりがちですが、木製サッシなら温かい感じがするのでしょう。職

▶ 木製サッシに欠かせない木材保護塗料

栗山建築設計研究所 代表 栗山 政雄 氏

木製サッシは結露防止の効果を期待することができます。この木製サッシに4mm3層透明ガラスを用いることにより外部からの遮音、室内を静穏で快適な室内環境に保つことができるので、病室にこうした木製サッシを用いるのは理想的ではないかと思えます。

建築主のこだわり専門性を加えて、満足度200%のものに仕上げることができ、設計者の務めです。このクリニック

では、外壁に用いたタイルとサッシ木部の色合いをどうマッチさせるか、設計者として気を配りました。

木製サッシで悩ましいのは木材の劣化です。通常、風雨にさらされる屋外に面した部分に木材を用いる場合、劣化は避けられませんが、メンテナンスを適切に施せば、長持ちさせることができます。そのとき、キシラデコールのような木材保護塗料が欠かせません。(談)

▶ 耐候性と作業性が利用の決め手に

株式会社ノルド 技術営業室 室長 石川 章 氏

木製サッシの木部には木材保護塗料を塗装することで、耐久性を高める必要があります。これまで採用していた別の塗料を利用してきましたが、このクリニックでは、キシラデコールを利用することになりました。

きっかけは、取引のある塗装会社から耐候性と作業性の観点で薦められた

ことです。当社としては、健康面で問題ないかどうか、その点を確認する必要があります。これまで採用していた別の塗料の高さに関する説明を受けて、問題は無い、と納得できたことから、キシラデコールの利用を選択しました。

耐候性と作業性——キシラデコールの利用に踏み切る決め手になったのは、この2つの点です。(談)

員からも、「大きくて明るい」とか「そうじしやすい」と喜ばれています。
—サッシ木部の耐久性は、どのよう
にお考えですか。
高木 ● 営業の方から「サッシそのもの

は30、40年もつが、屋外側の木部はこまめに塗り替える必要がある」と聞か
されています。回転させれば、手が届
くので、自分でも塗り替えられるかなど
考えています。

木材保護のトータルソリューションパートナー

日本エンバイロケミカルズ株式会社



キシラデコール

JASS18 M-307 適合品



読者を対象に、建材・設備メーカーの製品採用実証調査をアンケート調査
2009年10月12日発行



キシラデコ

販売販売
日本エンバイロケミカルズ株式会社
TEL: 03-5444-9860

【お問い合わせ先】

大阪 〒541-0051 大阪市中央区備後町三丁目6番14号 アークバシス備後町ビル ☎ 06-6268-3428

東京 〒105-0014 東京都港区芝二丁目5番10号 芝公園NDビル3階 ☎ 03-5444-9872 ☎ 03-5444-9860

www.jechem.co.jp

【キシラデコールに関する情報満載! ▶ www.xyladecor.jp】